

ロタウイルス胃腸炎予防ワクチン (ロタリックス内用液)の接種をご希望の方へ [保護者の方へ]

予防接種に欠かせない情報です。
必ずお読みください。

① ロタウイルス胃腸炎について

- ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多く起こるウイルス性の胃腸炎です。ロタウイルス胃腸炎の原因「ロタウイルス」は全世界に広く分布し、衛生状態に関係なく世界各地で感染がみられます。
- ロタウイルス胃腸炎の多くは突然のおう吐に続き、白っぽい水のような下痢を起こします。発熱を伴うこともあり、回復には1週間ほどかかります。また、ほとんどの場合は特に治療を行わなくても回復しますが、時に脱水、腎不全、脳炎・脳症などを合併することもあり、症状が重く脱水が強い場合には入院が必要となることもあります。
- 日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬～春に多く、主に生後3～24カ月の乳幼児に起こりますが、ピークは生後7～15カ月です。生後3カ月までは、母親からもらった免疫によって感染しても症状が出ないか、症状があっても軽く済みますが、生後3カ月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。実際に、ロタウイルス胃腸炎は、小児急性重症胃腸炎の原因の第一位で、受診した人の10人に1人が入院する、という報告もあります。
- ロタウイルス胃腸炎の重症化は、ワクチン接種によって防ぐことができます。

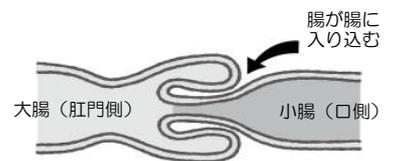
② ロタウイルス胃腸炎を予防するワクチン（ロタリックス内用液）について

- ロタリックス内用液は、ロタウイルスによる胃腸炎を予防する経口生ワクチンです（注射剤ではありません）。
- ロタリックス内用液は、人に感染するタイプと同じタイプのウイルスの病原性をほとんどなくし、培養細胞で増殖させて精製した後に、シロップ状にしています。
- ロタウイルス胃腸炎の原因となる主なウイルスは5タイプ（G1、G2、G3、G4、G9）ありますが、ロタリックス内用液はロタウイルスの中で最も一般的なG1タイプをもとに作られています。
- ロタリックス内用液を接種した後は、自然にロタウイルスに感染したときと同じように免疫が得られますので、他の4つのタイプに対する免疫も得られます。

③ 次の場合は、接種を受けないでください

- 明らかに発熱（37.5℃以上）している。
- 重い急性の病気にかかっている（下痢やおう吐の症状があるときは延期してください）。
- ロタリックス内用液の接種後にアレルギーなどの過敏症が出たことがある。
- 腸重積症^{ちようじくしん}の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管疾患（メッケル憩室など）がある。
- 腸重積症^{ちようじくしん}になったことがある。
- 重症複合型免疫不全（SCID）がある。
- その他、予防接種を受けることが不適當な状態にある。

* 腸重積症^{ちようじくしん}：腸の一部が腸のほかの部分に入り込んでしまう、緊急性の高い病気です。ワクチン接種の有無にかかわらず、0歳のお子さんがかかることが多い病気です。腸重積症になると、腸が詰まって血液の流れが悪くなることで、腸の組織が死んでしまう（壊死する）ことがあります。腸重積症になった場合、通常は肛門から腸内に液（造影剤や水など）や空気を入れてもとに戻しますが、発症から時間が経つほど（12時間以上など）、腸の壊死のために外科手術になる場合が増えるといわれています。



④ 次の場合は、医師に相談してください

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある。
- 他の予防接種で接種後2日以内に発熱がみられたことがある、または全身性発疹などのアレルギーを疑う症状が出たことがある。

